市民と憲法（第3・4ターム　月曜日5限）

担当教員：岡村 みちる 先生

2022年1月16日

**市民と憲法 意見・感想・最終考察などまとめ**

(1200文字以上)

【総評】

複数の受講生が書いたレポートへのレビュー活動と、自分自身のレポートに付けられた複数のレビューを見て、同じ話題に対するものでも、人それぞれに多種多様な意見や捉え方があるのだなと、改めて感じた。

例えば、（個人情報の保護のため削除）、同一の立場を表明したとしても、一人ひとりの意見に大きな差が生まれていることがわかった。

一方で、論題2に関しては、私は「従業員500人の企業を経営する50歳のワンマン型オーナー社長」を選択したのに対し、他の3人は（個人情報の保護のため削除）を選ぶなど、自分だけが対立する構図となることもあった。このとき、私は「経済的損失」と「社会的損失」という側面から考えていたのに対し、他の3人は（個人情報の保護のため削除）というような側面から考えていたが、このように立場や考え方の違いが生じていても、きちんと話し合い、お互いが結論に至るまでの思考のプロセスを共有することによって、お互いが持っている信念を知り、最終的にはそれらに歩み寄ることができた。いざ議論となると、お互いが好きなだけ主張をするだけで、相手の意見に耳を傾けたり寄り添ったりはしない、ということが世間でもよく起きていると思われる。しかし、このような世間の風潮に従うことなく、お互いの考えていることをしっかり聞き入れようとするその姿勢に、埼玉大学生の凄さを感じた。

【論題2】

ピアレビューの結果なども含めて、改めて論題2について考えを深めていく。はじめに、当初私はケース1に関して、「経済的損失」と「社会的損失」という観点から、「従業員500人の企業を経営する50歳のワンマン型オーナー社長」に薬を与え、またケース2に関して、集団免疫の有効性が認められていないこと、日本でのワクチン供給量が十分でないことなどから、述べられている見解に賛成するとしつつも、この判断によってワクチン格差問題が進行してしまうと考え、その解消のためには、余裕のある共産主義国がワクチンの再分配を率先して行うべきであると結論づけた。

ここでレビュアー1の方から、（個人情報の保護のため削除）というご意見をいただいた。これについて私は、少なくとも国民の90%以上にワクチンを供給すべきであると考えている。近代の日本は「福祉国家」として分類されることが多いように感じる。ここでは日本が福祉国家であると仮定すると、福祉国家では「国家が率先して自国民の環境を整える」という考え方をベースにしているため、ワクチン供給量が8割を切っているのにも関わらず、追加の供給を諦めてしまうとなると、福祉国家としての機能をきちんと果たすことができない。よって極めて100%に近い状況に持っていくことが理想だが、実現可能な目標として、まずは9割以上を目指すことが大切だと考えた。

【論題3】

論題3を題材としてピアレビューをするにあたって、とてもおもしろいレポートに接することができた。しかしその内容に少し疑問を感じたところがあり、今回はそこを重点的に深めていきたい。はじめにケース3について、当該レポートは、（個人情報の保護のため削除）と論じている。

しかし、全体的にこのレポートは、（個人情報の保護のため削除）。